

伊藤 勝巳 議員

識市会

熱中症対策として活用した 防災無線に関し検証する

問

今夏は特に暑い日が全国的に続き、熱中症に関する報道が毎日されたが、市の熱中症対策について尋ねる。

(1) 7月中旬、午前11時と午後2時の2回に防災無線を使い対応していたが、土日の放送がされなかった理由は。

(2) 8月に入り、再び暑い日が続いたが、1日2回の放送が1日1回午後2時の放送であった。なぜ1回になったのか。また、1回に決定された理由は何であったのか。

(3) 救急搬送は41名と報告されたが、市内で亡くなら

れた方は、1人もいなかったのか。

熱中症に対する認識も
高まり1日1回とした

答 健康推進課長

(1) 熱中症対策として7月10日から7月31日までの1日2回、同報無線により市民に注意喚起を行った。

根拠は、WBG T【】に基づき放送しており、土曜日・日曜日については、管理ができないことから放送をしております。



WBG T(湿球黒球温度)とは、人体の熱収支に影響の大きい湿度、輻射熱、

気温の3つを取り入れた指標で、乾球温度、湿球温度、黒球温度の値を使って計算します。(環境省熱中症予防情報報より)

(2) 同法無線を通じての呼びかけやテレビ、ラジオ及び新聞等により、市民に対する熱中症の危険や対策等、一定の周知はできたと考えている。一方で、同報無線については、苦情もありましたが、8月中旬に気温の上昇に伴い、熱中症の危険も非常に高まったことから、8月12日から8月20日までの1日1回午後2時に注意を呼びかけた。

答 市長

8月12日から1日1回は、私が判断をした。

答 健康推進課長

(3) 市内で熱中症により亡くなられた方はおりません。

風水害対策のひとつ として掲示板の設置を

(1) 現在、市民に対する海抜ゼロメートル標示の周知方法は。

(2) 電柱を利用し掲示板の設置についてどのように考えているか。

(3) 伊勢湾台風経験から当時2メートル近い水深があった。その目安として各電柱付近に表示板を設置してはどうか。

さまざまな数値に市民が
混乱しないようにする

答 防災安全課長

(1) 海抜ゼロメートル標示については、既に同報無線の支柱や避難所の看板など

約120カ所に設置している。

(2) 電柱の標示は、電柱の下から120センチから150センチの30センチの範囲内は使用していいというのが基本的な考え方である。

(3) 海抜表示については、緊急避難場所マップに掲載している。また、国土地理院のホームページ上に5メートルメッシュのレーザ測量をしたものを閲覧することもできます。

答 市長

さまざまな数値が混乱しても市民に迷惑をかけられると思っている。その点も踏まえ海抜標示、いわゆる海抜からゼロメートルマイナスというような標示で、津波が来る高さであることを標示することにいては、慎重に考えなければいけない。



▲同報無線の支柱に
設置された表示板